

専任教員教育研究業績

平成 29 年 5 月 18 日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
高嶋 有里子	たかしま ゆりこ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・○講師・助教	男・○女

小田原短期大学における担当科目名

音楽表現ⅠA、音楽表現ⅠB、音楽表現Ⅱ、音楽表現Ⅲ

学 歴

和暦（西暦）年 月	事 項	学位
平成 21 年 4 月	日本大学芸術学研究科音楽芸術専攻博士前期課程 入学	
平成 23 年 3 月	日本大学芸術学研究科音楽芸術専攻博士前期課程 修了	修士（芸術学）
平成 23 年 4 月	日本大学芸術学研究科音楽専攻博士後期課程 入学	
平成 26 年 3 月	日本大学芸術学研究科音楽専攻博士後期課程 修了	博士（芸術学）

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
日本大学	平成 26 年 4 月～ 平成 27 年 3 月	研究員
お茶の水女子大学	平成 26 年 5 月～ 平成 26 年 6 月	お茶大アカデミック・プロダクション 研究員
お茶の水女子大学	平成 26 年 7 月～ 平成 26 年 12 月	お茶大アカデミック・プロダクション 特任リサーチ・フェロー
二松学舎大学	平成 27 年 4 月～ 現在に至る	非常勤講師
小田原短期大学	平成 28 年 4 月～ 現在に至る	保育学科通信教育課程 講師

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容（役職等の活動を含む）
日本学校音楽教育実践学会	平成 23 年～	大会参加・口頭発表
日本音楽学習学会	平成 24 年～	大会参加
日本教材学会	平成 24 年～	大会参加・ポスター発表
全日本博物館学会	平成 28 年～	
日本図書館協会	平成 28 年～	
日本保育者養成教育学会	平成 28 年～	

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
生涯学習講座	平成 27 年 10 月	市民学習カレッジ・加須市シニアいきいき大学 講師（全 3 回）

担 当 教 科 目 に 関 す る 資 格 ・ 免 許 等

名 称	取 得 機 関	
	取得年月	
	年 月	
	年 月	

研 究 実 績 に 関 す る 事 項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 『下総皖一の校歌 ～統計分析による下総皖一校歌研究(市立おおとね童謡ふるさと室)』	単著	平成 23 年 2 月	アスピレートシステムズ	下總の直筆の楽譜 492 曲と浄書された楽譜 3 曲、合計 495 曲の分析を行った。調査方法は、ヤン・ラルーの分析方法を基にし、さらに論者自身が調査項目を加え集計した。結果として下總の校歌は、①ハ長調を用いている学校数が多く、さらに、フラット系を用いている校歌数が多かった。②主旋律のみの作曲で

2『下總院一校歌年表』	単著	平成26年12月	お茶の水女子大学 お茶大アカデミック・プロダクション	はなく、ハーモニーも作曲していた。③小学校、中学校、高等学校に合わせた校歌作りを行っていた。これらのことから、下總は生徒らのことを第一義と考え作曲を行っていたのではないかと結論づけた。 下總院一が作曲した校歌497曲を年表としてまとめた。
(学術論文) 1「大正期のキリスト教主義女学校における校歌表象について～頌栄女学校・横浜英和女学校を例として～」	単著	平成24年1月	『芸術メディアコミュニケーション 第9号』日本大学大学院芸術学研究科	本稿は、大正期に制定されたキリスト教主義女学校の校歌について①歌詞に表れる学校の教育観、②メロディーに表れる生徒の音楽能力と学校の音楽教育課程、③歌詞とメロディーからわかるキリスト教主義女学校の音楽教育思想について論じた。
2「明治期キリスト教主義女学校における校歌表象」	単著	平成26年1月	『芸術メディアコミュニケーション 第11号』日本大学大学院芸術学研究科	本稿は、明治期に制定されたキリスト教主義女学校の校歌について、歌詞からは行政の介入によって揺れ動く学校の教育思想、価値観など、旋律からはそこに表れる各学校の実情に合わせた旋律について論じた。
(その他) 1「明治期のキリスト教主義女学校における校歌表象」	口頭発表	平成24年8月20日発表	日本学校音楽教育実践学会鳴門教育大学開催	本研究は、明治期に制定されたキリスト教主義女学校の校歌について、歌詞からは行政の介入によって揺れ動く学校の教育思想、価値観など、旋律からはそこに表れる各学校の実情に合わせた旋律について発表した。
2「教材としての校歌～和洋九段女子中学校・高等学校を例として～」	ポスター発表	平成24年10月20日発表	日本教材学会福山大学開催	東京都私立和洋九段女子中学校・高等学校(以下、和洋九段校)は、1997(平成9)年に創立100周年を記念して新しく制定された。新しい校歌は4つの曲から成り立つ賛歌(=校歌)であるだけでなく、音楽教材としても用いられることを前提に作られたものである。本研究では、和洋九段校の校歌がどのように制定され、また、どのような音楽教育的機能を持っているのか「学習指導要領」を元に発表を行った。
3「教材としての校歌2—和洋九段女子中学校・高等学校を例として—」	口頭発表	平成25年8月17日発表	日本学校音楽教育実践学会お茶の水女子大学開催	本研究は、音楽教材として用いられている和洋九段校の校歌を紹介するとともに、一過性で終わってしまう校歌指導がどのように通年の授業で取り入れられているか、音声資料とともに発表を行った。
4「校歌の制定背景—光が丘地区小学校統合における校歌制定までの流れ—」	ポスター発表	平成25年10月19日発表	日本教材学会日本大学文理学部開催	平成22年3月31日をもって東京都練馬区光が丘地区に8校の小学校が閉校した。そして、その翌日の4月1日から4校が新たに開校した。新たに開校した4校は、開校に合わせ校歌を新しく制作していた。その制作過程は、“統合準備会”という組織の中で協議された。4つの統合準備会で話し合われた校歌の制作過程を比べてみることで、各小学校がどのような過程を経て校歌が出来上がったのか調査・発表を行った。
5『横溝正史研究4』	共著	平成25年3月	戎光祥出版	横溝正史事典の中の4項目“人形佐七捕物帳”“木乃伊の花嫁”“双仮面”“仮面劇場”を担当
6『横溝正史研究5』	共著	平成29年3月	戎光祥出版	横溝正史事典の中の1項目“黒猫”を担当
その他 (表彰等)				